

説教

「神は、我々と共におられる。」

(マタイによる福音書一章二三節)

久世教会 牧師 宮本裕子



主なる神様は
先月十一月二四
日(火)、私を
正教師の職務に
任じてください
ました。東中国

教区の教職の皆さま、また教会の兄弟姉妹の祈りに支えられて、コロナ禍の中、按手札が無事に執り行なわれましたこと、感謝いたします。

正教師となり、これからは聖餐式と洗礼式を行うことができます。聖礼典が行えるということは、イエス様の命を扱うことですから、恵みであります。一方、畏れの気持ちが入り混じっております。私の頭の上



東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒770-0086
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト教会館内
TEL 0864-221-2780

に置いてくださった、先輩牧師先生方の手の重みを忘れることなく、この畏れの気持ちをもち続けていきたいと思っています。

久世教会(創立一九〇五年)・勝山教会(創立一九一八年)は、百年以上も前に創立された歴史ある教会ですが、長い間、様々な試練の中にありました。しかし、本日まで絶えることなく説教が語られ、聖礼典が行われ、真庭の地に立ち続けてきました。これはひとえに、主の憐れみと他教会の牧師の助けによるものです。また、主の教会を何としても守ろうとした信徒の皆さまの信仰のためでした。

今までは助けられるばかりの久世教会・勝山教会でしたが、これからは、助ける側になりたいと願っております。何よりも、地理的に東中国教区を中心に位置する久世教会と正教師として立てられた私を、大いに用いていただきたいと思います。久世教会が主の福音をますます告げ知らせる教会として、東中国教区の教会と協力して歩んでゆくことが出来たらなんと感謝なことで

目次

説教「神は、我々と共におられる。」	1
「謝恩日献金」ってなあに?	2
コロナ禍における教会の一年	3
コロナ禍における教区財政と教会支援について	4
西日本豪雨災害	5
ボナペワークキャンプをこ存じですか	6
教会紹介「総社教会のクリスマス」	7
「こんにちば」のお部屋・編集後記	8

しよう。

他教会との伝道の協力には、信仰の一致が欠かせません。カルヴァンは、「神的教理の真理において、一致し、同一宗教の絆によって結合されている教会」それが信仰の一致した教会であると『キリスト教綱要』(第四篇)の中で言います。

神学校に入学した時、神学者であり牧師である教授が新入生を前にして、キリスト教をひと言で言い表わすなら「インマヌエル・アーメン。神、我らと共に。」と言われました。マタイの聖句にある通りです。「わたしの」教会だけではなく、「わたしたちの」教会と「共におられる神」は、共に協力して、伝道に励むようにと、招いてくださいます。

伝道の不振を嘆くのではなく、希望の始まりとして今年のクリスマス、『神、我らと共に。』主のご降誕をお祝いしたいと思います。

「謝恩日献金」って なあくに？

東中国教区 教団年金局理事

琴浦教会 佐藤孝志

一、謝恩日献金とは

教師の年金財政を支える財源として、年金制度に組込まれた献金で毎年十一月最後の主日「謝恩日」に献げる献金です。

二、隠退教師を支える運動「百円献金」との関係は

「謝恩日献金」は教会の業として、「百円献金」は信徒活動として、全国運動として展開されています。

三、教団年金の現状は

収入である年金掛金（三三〇百万円）支出である年金給付金（四五〇百万円）差額（一二〇百万円）の不足です。その差額を謝恩日献金（四〇百万円）百円献金（四〇百万円）教団繰入金（二〇百万円）資産運用益（四六百万円）他で収支がバランスしています。

四、東中国の謝恩日献金参加状況は

① 教会参加数 全国 九九一（六〇％）

東中国 二七（五九％） 東中国は過去最高の参加です。

② 献金目標達成率 全国 四〇百万円（三七％） 東中国 七十万円（三〇％）

③ 全国教区（十六教区・除沖縄）内の東中国教区の現状

教会参加率 十三位 献金目標達成率 十位

五、公的年金だけで隠退後の生活はできないのですか

教師は一般の給与所得者に比べて公的年金が低いのが現状です。特に隠退後は牧師館を出て住居を確保しなければなりません。公的年金で生活費を、教団年金で住居費を支えと位置づけています。



六、教会が全面的にバックアップしています

① 掛金は教師標準報酬月額額の八％で、その三分の二を教会が、三分の一を教師が負担しています。

② 謝恩日献金や百円献金によって制度を支えています。

以上ですが、謝恩日献金について少しは理解が深まったでしょうか？ もっと質問のある方は「教団年金局 電話〇三―三三〇二―二〇八〇」までお問合せ下さい。最後に三期六年間、年金局理事を担当しました私は今年度で交替することになりました。後任は倉敷教会の宮脇俊昭さんです。ご支援よろしく願いいたします。また、六年間私に賜ったご支援を心からお礼申し上げます。

「コロナ禍にある教会の一年」

岡山教会 牧師 大塚 忍

新型コロナウイルス感染の波が今も拡大し続けています。初めにわたしが牧している岡山教会のこの一年について記させていただきます。岡山教会は感染拡大が少しずつひろがる二月二三日、役員会で「新型コロナウイルスへの日本基督教団岡山教会の対応について」を配布し注意喚起を促しました。消毒、マスク着用、体調不良の場合の礼拝参加についてなど、最低限の対応が記載された文書です。三月一日には、礼拝以外の集会の中止についての文書、三月二十九日には、集団感染の発生リスクについて、席の間隔についての注意喚起などの文書を配布しました。しかし、感染が全国的に増えていく事態を重く受け止めた役員会は、四月十九日からの礼拝休止を決定しました。日曜日の礼拝は、二人の牧師だけで聖書を読み祈ること、第一礼拝（子ども中心の礼拝）説教、第二礼拝説教、祈祷、牧師からの

メッセージをA4・一枚裏表に印刷して配布しました。礼拝では、教会員一六〇人の名前を読み上げ、一人一人を思いながら祈りをささげました。開催される予定だった教会総会は、議決権行使書によって行われました。四月三〇日からはオンライン（zoom）による聖書研究会が始まりました（毎回二十名前後の参加者）。礼拝が再開されたのは五月二四日からでした。岡山教会の礼拝堂には約一五〇名の方々が集うことができます。しかし、礼拝再開に当たって、密を避けるために五〇名以下で礼拝を守ることを決定し、第一礼拝、第二礼拝共に、地区ごとに分かれて礼拝をささげることになりました。礼拝順序はこれまでと比べてコンパクトになっています。聖餐式は、牧師がマスク、フェイスシールド、手袋をして司式をしています。窓を開けてサーキュレーターを回しての礼拝となっています。行われる予定だった行事はすべて中止、延期となりました。教会運営のために役員会で様々なアイデアを出してきましたが、限界を感じることもありました。礼拝の出席をひたすら待ち望みながらも、参加す

ることができない方々に対して、どのように対応すべきか、ということも深刻な課題です。

東中国教区は、一堂に会しての総会を二度中止し、議決権行使書を用いての総会が行われました。常置委員会では、財政状況が厳しい教会の宣教のために、負担金の減免、さらに、十一月二五日付けで「新型コロナウイルス感染禍に於ける教会財政支援」の文書を配布しました。また近日中に常置委員会名で新型コロナウイルスに関する「声明」を出す予定にしています。未だ感染拡大が止まらない中であって、様々な場面で分断、差別が起こっています。わたしたちに与えられている使命は、この分断から和解を構築していくことなのではないでしょうか。「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」（ロマ十二・十五）との御言葉を心に刻みながら、祈りを合わせ語り合いながら、この時を乗り越えていきたいと思うのです。

コロナウィルス禍における 教区財政と教会支援について

財務部 濱上 進

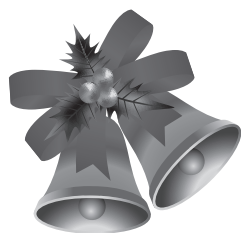
世は、まさに新型コロナウイルスの恐怖に震撼とさせられています。一つの国に端を発して一年足らずのうちに全世界に蔓延し、ここ日本でも、第三波を迎え新たな感染予防対策とともに新しい生活様式を模索し脅威から逃れる努力に日々悩まされています。多くの教会では、大切な聖日礼拝をいかに守っていくか知恵と努力を積み重ねる昨今ではないでしょうか。Zoom配信のリモート礼拝、時間や人数の短縮礼拝、換気徹底の耐寒礼拝、対面回避の家庭礼拝、複数回分散礼拝など対応は様々です。そして、礼拝以外の集会行事は多くが中止又は延期となり交わりの機会が極端に縮小されています。人々の行動も三密を避け、マスクで顔を覆い、声を発せず、隙間風に耐えるそんな行動規範が常識となった新生活様式として定着しつつあるようで寂しさを覚えるとともに、主のもとに相集って賛

美と礼拝が出来た頃が懐かしくさえ思われます。

そんな閉塞感の漂う信仰生活に東中国教区は各個教会に寄り添い、励まし合って希望を抱いて歩もうと激励の意を込めて、負担金の一律10%軽減策を発しました。一律軽減でなくて困窮の大きさに合わせて支援すべきとの意見もありましたが、混乱の中にあるのは皆同じです。特に高齢化が進む日本の教会事情では、感染によるリスクが大きいことを意識し、足が遠のくのはやむをえない現象ですし、学生信徒が多い教会でも、本業の自粛を促される学生が教会に出入りするにも行動規制をしてしまいます。教会に集う機会が減れば減るほど献げものをする機会も減り、自ずと教会を維持運営するうえで必要な資源が不足するという悪循環に陥ります。日頃から限界に近い運営にならざるを得ない教会は、困窮の度合いが大きいのではないのでしょうか。そのため教区としては、すべての信仰の群れに少しでも力になれるようにするとともに、それ以上に厳しい事態に対応するための支援策を検討しました。教区内のいろいろ

な行事や会議並びに地区活動や各部活動の自粛又は節約によって供せられた、パンくず^①を用いて今年度の実行予算を組み替え、支援の糧に供することが出来ました。加えて教団への負担金も一割程度の軽減がなされ支援策に加勢を受け感謝です。

「礼拝や諸集会が維持するための感染防止用機器の補助」及び「教会財政困窮への支援」など具体的な支援方法については十一月二三日に開催の第一回宣教会議で意見交換し翌二四日の第四回常置委員会で決定されましたので、早速、全ての教会にお知らせすることが出来ました。神様のお導きに感謝し、後半の宣教活動が円滑に進むようお願いいたします。



西日本豪雨災害

三石教会 牧師 延藤好英
和気教会

二〇一八年七月の西日本豪雨の被災地の一つ、岡山市東区西平島では、日本基督教団がパイプ役となつて、台湾長老基督教会の大工チームが活躍してくれました。当時ボランティアで支援に集まった人たちは、その後も、あるご家庭の農作業支援を中心に今もそのかわりを続けています。わたしもその中の一人です。以下、このチームのまとめ役である「たけちゃん」こと後田たけじろうさんの文章をもつて、その思いを伝えさせていただきます。



2020年7月田植えのとき

【ハッピー稲刈り】二〇二〇年十一月八日
今年の七月はじめに手植えた朝日米。立派に実って収穫を迎えることができました。食事班・託児班・稲刈り班、わんぱくキッズ、参加者の総数は五十六名でした。当日参加の皆様、ここまで辿り着くまでに、支えて下さった皆様、ありがとうございました。「どうして、そんなに人手が必要なの？」とビックリされる方もいらっしゃるかもしれませんが・・・実は、二〇一八年の西日本豪雨のとき、すぐ近くの河川の土手が決壊し、岡山市東区の平島の住宅地も、田園風景が残る農家さんの集落も、町全体が、二日間は大水に覆われてしまいました。その大きな打撃は、女手だけで土地を守ってきたＪさんに「もう農業を辞める」という決意をさせるには充分なものでした。家屋や自家用車だけでなく、農機具一式を失うことになったのですから。

実際に、この日に関わって下さった皆様は、復旧・復興の活動を通して親しくなつて、みんなＪさんのお手伝いを何かしら、してきた人たちで、Ｊさんが大好きで集つていきます。＼してやつてる＼などという感情はココには在りません。

お金もいらない。泥んこになって、汗を流して、それがＪさんの役に立っていて、自分のためになっている。みんなきつとハ

ッピーな気持ちだったと想います。

一人ひとりが役割を発揮し、自主的に動く姿は、とても頼もしく、信頼できる仲間たちのお陰で、稲刈り初心者の人

もお陰で、みんな温かな笑顔で、ほっこりした一日でした。二、三週間、天日に干した後、脱穀・粳摺りして、それから玄米になります。精米して、炊飯して、ふっくらお米で、おにぎりにすると・・・美味しい。ほんとうに美味しい！

Ｊさんのご家族、祖先の方々が大切にしてくられた田んぼで、Ｊさんのこの願いを叶えるために、これから子どもと大人たちの元気いっぱい賑わいと共に、この青い空の下、未来へと繋がってゆきますように☆感謝と祈りをこめて。

(たけちゃん☆空色と愉快で心あたたかな仲間たちより)



2020年8月西平島の方々とボランティア

ポナペワークキャンプを ご存じですか

琴浦教会 川上幹太

グアムより南、ミクロネシア連邦の中にポナペという島があります。ポナペ・ワークキャンプは、荒川義治牧師夫妻が、現地で宣教活動を継続していくために、事業を始める必要があったということに端を発しています。その事業は豚や鶏の飼育に始まり、ハイスクールの設立等に及びました。荒川牧師が一九七六年から現地で何十年も奮闘して来られた歴史に比べれば、年に十日ばかり立ち寄るにすぎないワークキャンプの働きは微々たるものということになるでしょう。それでも、このワークキャンプは参加者の心に生涯、忘れがたい経験となり、まさしく「命」を与えました。琴浦教会に赴任して初めて知りましたが、この教会からは四名が参加しており、その中にはワークキャンプがきっかけで受洗された方もいるのです。

私がポナペを知るきっかけは、ワークキャンプの隊長もされていた稲垣壬午牧師が、私の父の赴任する教会の前任者であったことです。私は新しい群馬の地で高校生活が始まった頃でしたが、その年の夏に行くことになりました。一九八九年の第十五次隊でした。

子どもの頃、外国、それも南国の自然に触れることにはすごい憧れがありました。図鑑でしか見られなかった生き物たち。足元にいる小動物が日本のと違うというだけで興奮する人間なので、人間よりもそちらを見ていたと思います。私にとってはその程度の動機しかありませんでした。そんな私でしたが、最も記憶に残っているのは夜の聖書研究会です。チャプレンであった春名康範牧師がネヘミヤ記を解き明かし、バビロン捕囚からの解放の後、老人も子どもも男も女も心をも一つにして神殿の再建作業にあたった様子と、ワーク参加者の姿を重ねて、皆の作業は決して小さなものではないよと励ますという内容でした。正直、ワーク自体はそんなに大変だったとは感じなかったのですが、自分の働きがどれほど役に立っているかは自信がないです。だからその説教が印象的だったのだと思います。ポナペに行ったこと、そこで人々と自然と出会ったこと、交流したこと、それが何より大事なことであったのです。奉仕



ご馳走のニシキエビを茹でる



この建物のペンキ塗りをしました

活動のために行きましたが、働いた分よりはるかに多くを与えられて帰って来ました。それは、神様とはどういう方か知る経験でもあったのだと思います。

荒川先生の担っておられたプロジェクトが目指す所は、大国に養われて来たポナペの政治的・経済的自立です。一組の宣教師夫妻が中心となってポナペ社会全体を変える働きをして来られたこと、そのための環境づくりに少しでも関わることで、私たちはこの地上で生きて働く神のわざを見たのです。

教会紹介

・総社教会のクリスマス・

土井しのぶ



総社教会は二〇一三年、教区や地区の働きで教会を再開し、現在では中井大介牧師（倉敷教会）が代務を担ってくださっている小さな教会です。

礼拝は毎日曜の午後三時半から四時半、出席は礼拝看板を見て来られた地域の方、外国籍の方、他教派の方など様々な方が出たり入ったりで、昨年度は平均九名の礼拝出席で感謝でした。クリスマス礼拝は通常

の時間内で聖餐式を守り、別に「クリスマス祝会」を日曜日以外の日に設けてきました。総社教会がしばらく休止していましたので、この「クリスマス祝会」は地域の方々にまた近隣の教会の方々に、現在の「教会」を親しく知っていただくチャンスです。毎年、趣向を凝らして頑張ってきました。

通常の日曜礼拝は地区で説教者の派遣体制が整えられ、第一聖日は倉敷教会、第二は倉敷水島教会、第三は琴浦教会、第四は天城教会からの牧師派遣と「協働」の恩恵に感謝しています。コロナ対策に関しては、会堂での礼拝は地域状況を見ながら近隣の教会と歩調を合わせていました。緊急事態宣言時の約一か月は会堂礼拝を休止し、六月から会堂での礼拝を感染予防に注意を払いつつ開始しておりました。

さて、今年の「クリスマス祝会」です。暑い夏を過ごし、コロナは未だ収束せずの状況ですが、小さな「クリスマス祝会」なら・と、早々に日程を十一月二十八日（土）待降節前日に決め、準備を開始しました。昨年同様「世界で一番早いクリスマス！」と称して。ですが、十月末、市内の介護施設でコロナのクラスターが発生しました。仕方がありません。今年は中止といたしました。

回想となりますが、当初の「クリスマス祝会」は笑ってしまうほど惨憺たる会場で

の開催でした。会堂後方には壊れたベニヤ壁がぶら下がり天井も壁もしみだらけでした。そうした中でも、応援に駆けつけて下さった近隣教会の方々、地域のオカリナチーム「風の響」（毎回出演！）で小さな会堂は満員でした。二〇一四年と二〇一五年、有志のご奉仕者たちによって天井や壁が塗られ会堂内が美しく整備され、エアコンまで設置され、すこぶる快適になりました。二〇一八年には中島献二先生たちのトリオコンサート、キャンドルライトも好評でした。

写真はいままでのクリスマス祝会の様子です。ご覧ください。そして、またいつか総社教会に足を運んでください。お待ちしております。



「こんにちは」のお部屋

「キ障共って何？」 障害者を真ん中に

東中国キリスト者障害を共に学び共に担う会

会長 難波幸矢

会の頭文字を略して『キ障共』といいます。スタートは一九八八年アドベントからです。在日大韓基督教会岡山教会金性済牧師（現在日本基督教協議会総幹事）や、ハンセン病療養所光明園家族教会の津島久雄牧師、信徒も盲、聾、身体に障害のある当事者が集まって話し合っってスタートしました。その頃盲人の姉妹が「幸矢さん、行く教会がない」と電話をくれたのもきっかけの一つでした。初めて教会に迎えられても、

丁寧に関わってあげている間によそへ行ってやという雰囲気があるというのです。スタートに当たって、教区内にあるすべての教会（超教派）に案内のハガキを出しました。「もし貴教会に障害を持つている方がいらっしゃったら」と会員を募ったら「幸いにもウチの教会には障害者はいません」とか「牧師を抜きにして信徒間で？」というのもありました。

そして会を開いてみたら、それまで教会活動で障害者が遠慮していたのか、講演会はもちろん梨狩り、ブドウ狩り、手作り音楽会（自分たちで作詞、作曲）一泊修養会等々それはもう楽しく忙しく忙しい三十年間でした。

そして全体が高齢化の中で、現在は講演会とプラス一つくらいです。鳥取側は春の日集会を開いています。シャロームという通信誌は三か月に一回出しています。

イエス様が手の萎えた人に「真ん中に立

ちなさい」と言われたように、障害者が教会で真ん中に居れるようになるまで。屋根を剥がして友人をつり下ろした仲間たちのまねごとをさせて頂きたいと願っています。

編集後記

クリスマスおめでとうございます。新型コロナウイルスの感染第三波が今までの波以上の大きさでやってきている現状の中、私たちは特別な思いでクリスマスを迎えようとしています。私たちの希望の星イエス様の誕生を心からお祝いしたいと思います。

今号教区ニュースを作成するにあたって編集委員会は頭を抱えました。記事にできそうな行事がほとんど開催できなかったからです。前号はやむなく通常の半分の四ページ建てとなりましたが、今号はクリスマス号なので、できるだけ通常の八ページ建てにしようと編集委員のお二人にもご足労いただきました。結果かなりバラエティーに富んだ内容になったのではないかと自負しています。来年には一日も早くコロナ騒動が終息し、平安な日々が訪れるようにと祈るばかりです。（米良）

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
電話番号 ○九〇―一三三〇―一八七三〇

